

9月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

1 水稻(2期作)

葉いもち、コブノメイガの防除対策について

- 両病害虫とも例年9月から10月にかけて発生が多くなる。
- 葉いもちは多湿で発生が助長される。今後発病株率が高くなる傾向にあるので、ほ場の見回りを行い早期発見、早期防除に努める。
- コブノメイガは2期作では密度が高く、世代が重複し各態が混在しているため、活着期から計画的な防除に努める。

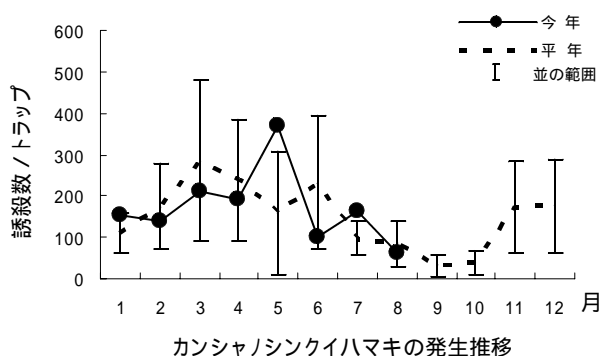
2 さとうきび

(1)メイチュウ類

発生程度： 並

予報の根拠

8月のカンシャノシンクイハマキ性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は61.5頭(前年150頭、平年85.2頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 加害による心枯を防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。
- 夏植の苗植付時には、土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

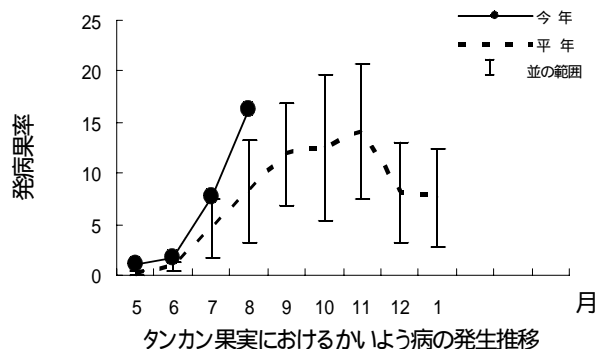
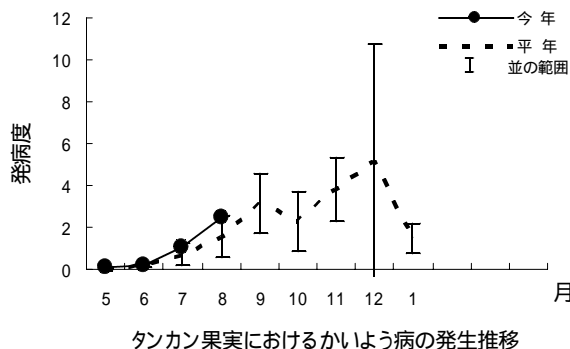
3 タンカン

(1)かいよう病

発生程度： やや多

予報の根拠

- 8月下旬の調査の結果、果実における発病度は2.43(前年1.63、平年1.57)と平年並みで、発病果率は16.3%(前年11.43%、平年8.15%)と平年よりやや高かった。
- 一部ほ場で多発生が見られた。



防除上注意すべき事項

- 罹病枝葉は伝染源となるので除去する。り病果実も摘果を兼ねて除去する。
- 夏芽のミカンハモグリガの穿孔から病原菌が侵入しやすいので、同虫の防除を徹底する。

4 マンゴー

栄養成長期の病害虫防除対策について

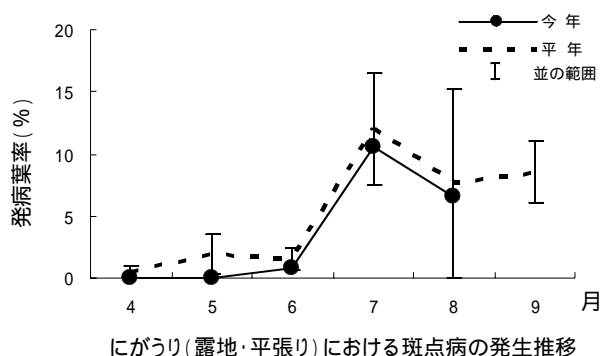
収穫がほぼ終了した(初期)栄養成長期にあたるこの期間は新梢・新葉部を中心に、アザミウマ類、ドクガ類、マンゴーキジラミ、ハダニ類などの多くの病害虫が発生する時期である。8月下旬の調査では、一部のハウスでチャノキイロアザミウマ、マンゴーハフクレタマバエ、コシロモンドクガ、軸腐れ病の発生が認められた。これらの病害虫の発生動向に注意し、残さ物等は速やかに除去するとともに、早期防除に努める。

5 にがうり(露地・平張り)

(1) 斑点病

発生程度： 並
予報の根拠

- a 8月下旬の調査の結果、発病葉率6.6%(前年3.2%、平年7.6%)と平年並であった。
- b 本病は例年、夏場に多く発生する傾向にある。



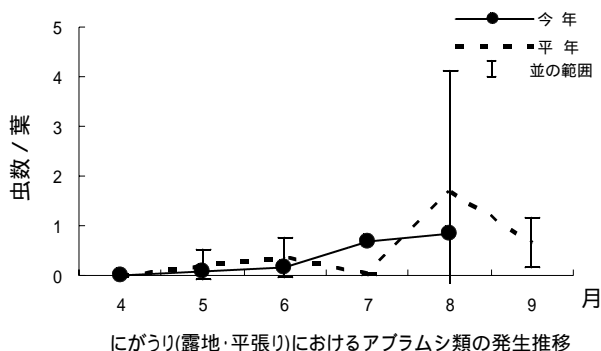
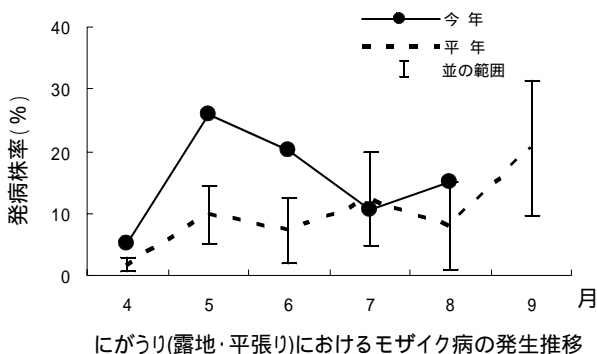
防除上注意すべき事項

- a 老葉や病葉は発生源になるので除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- b 圃場の排水を良くし、密植にならないように注意する。
- c 窒素過多にならないように適正な施肥管理をする。

(2) モザイク病

発生程度： やや多
予報の根拠

- a 8月下旬の調査の結果、発病株率は14.9%(前年1.3%、平年7.9%)と平年よりやや多かった。
- b アブラムシ類の葉当たり虫数は0.8頭(前年0頭、平年1.7頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

平成16年度病害虫発生予察注意報第2号(平成16年6月7日付け)参照

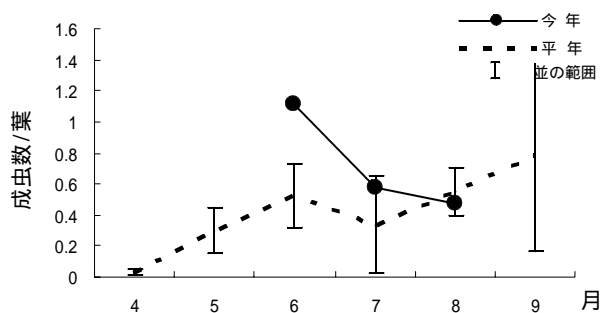
6 なす(露地)

(1) ミナミキイロアザミウマ

発生程度: 並

予報の根拠

8月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.5頭(前年0.7頭、平年0.6頭)と平年並であった。



露地ナスにおけるミナミキイロアザミウマの発生推移

防除上注意すべき事項

- 圃場の周囲に寒冷紗等による障壁を設置し飛来侵入を防ぐ。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。